

策定委員からの意見およびパブリックコメント一覧

※網掛けは前回会議終了後に提出のあった意見

ハード① 新展望台について

策定委員の意見

- ①(混雑や事故の防止のため)階段の付け方について上り下りを別々にしてほしい
- ②現在のような狭いものではなく、展望台の上でゆっくりひまわりが眺められる広いスペースがあれば良い。
- ③場所は畑の直近。散策しながら気軽に上がれる展望台。さらに一つだけではなく複数あれば見え方の違いを楽しめるので滞在時間も増加するのではないか。したがって観光センター一体型は費用対効果の面で疑問。
- ④観光センター一体型に賛成。ただし、行き来がゆったりできるようなものを。また色についてもしっかり考えて建ててほしい。
- ⑤不満が多いなら改築するのもやむを得ないが、現在の展望台でいいのでは。
- ⑥スペースを広くし椅子を置く。また、1階部分でも休めるようにしてほしい。
- ⑦スロープ付き。また、上り下りを別にし、混雑しないように。
- ⑧上の畑にも展望台があればひまわりの見方も変わる。

パブリックコメント

- ①展望台は、ひまわりの里を望むために必須であり、新観光センターの屋上という案に賛成。
カフェ併設については、冬期利用が多くないと思うので反対。
- ②上り下りの階段を別にし、スペースをもっと広くし、階上や階下にイスを置き、展望したり休憩できるようにしてはどうか。
- ③上り下りの階段を別にし、階段の幅もゆったりとってほしい。
- ④建築場所によっては景観を損なう恐れがあるので場所をしっかりと協議すべき。
- ⑤新展望台によって観光客を誘致するという視点も有るが、新展望台だけでなく観光センターや駐車場(路面にギンガムチェック柄を色づける)の改築によって総合的な視点で観光客誘致をしていく必要がある。
- ⑥冬の雪害について考慮したものを。

ハード② 観光センターについて

策定委員の意見

- ①(観光センターも老朽化)世界のひまわりコーナーの方に建設し、その屋上を展望台にするのはどうか。
- ②観光センターをくぐった先にひまわりの絶景を見せるのもいいのでは。
- ③スポーツ施設としての活用、雨天対応等から現状の大きさの建物を。
- ④建て替えの案が出ているが、通年使用できる施設が1つあっても良い。春～秋にカフェスペースとしての使用やワークショップなどのイベントで使用できる。
- ⑤現在のような箱形の観光センターにしてもらいたい。
- ⑥今の観光センターは補修してスポーツ施設としてそのまま活用。新しい観光センターは長屋風が良い。展望台と一体型のおしゃれなものにしても、今出店しているお店とは合わない。
- ⑦真ん中に建て、前と後ろの両方でひまわりを眺められるように。二階建てにして一階を食事、二階を展望台が理想。
- ⑧現在の観光センターは観光客用としてそのまま使用。催事については、毎年テントハウスをリース・レンタルして対応することも可能ではないか。
- ⑨まつり期間中だけの使用では不経済なので、期間外の利用も考えてほしい。また、期間中の歌謡ショー、盆踊り等イベントの実施スペースとひまわりを見ながら食事ができるスペースを確保してほしい。
- ⑩現在のものを改修する。もしくは新築であれば現在のような箱形。
- ⑪雨宿り対策必要。
- ⑫今の観光センターは外から見て何の建物かわからない。一目で分かる施設を。
- ⑬新しい建物等を作るのであれば町内事業者が作れる物を。

パブリックコメント

- ①建て直すのであれば、ただの箱物にするのではなく、ユニークな建物がいい(北海道で見た事のない建物)。また、使い勝手のいいもの、無駄のないものにするべき。
- ②世界のひまわりの場所にて展望台を兼任した観光センターの建て替え。(展望台へのエレベーターも設置)
- ③夏は黄色、秋は黄金色、冬は白色、春は桜色など色の変化によって年間のイベントが創出できるような場であってほしい。また、商売ができ、繁盛するような施設にしてほしい。
- ④世界のひまわりコーナーに新築し、屋上を展望台、カフェコーナーにしてはどうか。
また、現在の展望台がある道路から観光センターの屋上へ歩いて行けるなだらかなスロープを設置してはどうか。(車椅子も対応できる)
- ⑤ひまわりの里を夏はマラソンコース(北商ロードレース)、冬はクロスカントリーコースをして活用。(その発着点を考慮した観光センターの新築)
- ⑥授乳室やオムツ交換スペースをしっかりと整備し、子ども連れの家族にも優しい観光地ということをアピール。
- ⑦現在の建物と同じような物を。

ハード③ ノンの森の整備について

策定委員の意見

- ① ノンノの森は花を植えて整備し、ベンチやテーブルを設置するだけで良い休憩スペースになる。
- ② 日陰を作ることが重要。針葉樹だけではなく広葉樹も必要。今の歩道は歩きにくいので管理をしっかりすることも必要。
- ③ 見通しを良くするとともにベビーカーや車椅子が通れるように整備必要。
- ④ 園内に日陰スペースがないのでテントハウスを森の中や外に設置してはどうか。
- ⑤ クワガタやキリギリスなど昆虫が採れるなど自然豊かな場所に。
- ⑥ 防虫対策必要。

パブリックコメント

- ① ノンノの森の中にジギスカンコーナーや焼き鳥コーナーがあると良い。
- ② もう少し見栄えよくしてほしい

ハード④ 観光案内所・協力金受付・ひまわり自転車レンタル等 について

策定委員の意見

- ① 観光案内所は車から降りてすぐ分かる場所に設置すべき。
- ② 協力金受付はひまわりの里入口で行った方が効率が良い。
- ③ 協力金は、あくまで「こころざし」。集めすぎはよくない。観光客からやりすぎとの声もあり。今後も目立つ場所でやるのであれば客寄せ行為をしない方が良い。
- ④ 協力金受付は大変であり、いつまで続けられるか。
- ⑤ 旅行会社をお願いし、事前に添乗員からツアー参加者に対して協力金について話をしてもらえば効果が上がると思う。また帰り道に協力金お願いの看板の設置も必要。
- ⑥ 自転車レンタルは観光センターのすぐ近くに設置し、お金を入れたら使用できるものにしてはどうか。そのほかの施設は観光センター内に入れて情報交換ができるようになればいい。
- ⑦ 自転車レンタルについては、自転車に乗れない方々用の乗り物があれば喜ばれる。特別な観覧車。

パブリックコメント

なし

ハード⑤ ひまわりの里魅力アップ計画について

策定委員の意見

- ①ひまわりの上を空中散歩 ターザンロープ、ジップライン
- ②ひまわりの間を抜ける滑り台(そり)
- ③ひまわりを下から見上げる仕組み
- ④ひまわりの里のライトアップ 下から照らす 幻想的に浮かびあがる
- ⑤日よけ+雨よけ+休息 景観と建物のマッチング
- ⑥現展望台農業排水路の埋設 → 一体的なひまわり畑の造成
- ⑦ひまわりを身近に見えるように (ひまわり畑 A・B は遊覧車号専用道で分断されている)
- ⑧ひまわり畑外周道 → ひまわり畑 G と I の間に通路を造成
- ⑨ひまわりは高すぎると倒れるリスク。低いと迫力不足。適切な種類の選定が必要。
- ⑩温泉の方までひまわり畑を拡げてはどうか。
- ⑪持ち帰り用のひまわり畑を作り、刈り取ってもらうのはどうか。
- ⑫ひまわり畑の写真コンテスト(インスタグラム活用)。
- ⑬花火大会の協力金集め。
- ⑭写真家の大会を開催。

パブリックコメント

- ①ひまわり畑内(道路付近)に雨宿りや、日よけの場所が無いので、そのような施設が欲しい。
- ②ひまわり畑の上段部に外周の遊歩道が欲しい。
- ③ひまわり畑の西部の山林に桜を植樹すれば、花見をする観光客が来るのでは。
- ④ひまわりの上から下へ移動するジップラインは良いと思う。
- ⑤観光牧場とアイスクリーム屋をつくってはどうか。
- ⑥網走のシマリス公園のようなものを作り、餌としてひまわりの種を売るのはどうか。

ハード⑥ その他

策定委員の意見

- ①いいひまわりを咲かせるためにひまわり畑の改良 → 客土、暗渠、堆肥、緑肥
- ②渋滞緩和策 駐車場の増設や迂回路の造成
- ③現在、ひまわりの栽培管理は NPO をお願いしているが、建設業者なので一般管理に疎く病害虫対策が不十分。したがって5月~9月の5ヶ月間、良く分かっている経験者に委託し管理指導をしてもらう必要があるのではないかと。
- ④駐車場を一般と車椅子利用を完全に分け、車椅子の方が降りてすぐひまわり畑に行けるようにしてはどうか。
- ⑤過去のひまわりまつりの写真集を作成・公開する。
- ⑥計画通り開花できるように、ひまわり畑にかん水装置を設置。

パブリックコメント

- ①(渋滞緩和のため)墓地線を拡げる、西川方面へ抜ける道路の新設。
- ②国道に面したひまわりの里入り口に素敵な誘導看板の設置。
- ③出口は西川方面へ抜ける町道の新設。夏のマラソンや冬のクロカンの参加者の心を掴む道路(勾配が箱根駅伝と同じなど)を作り、その道路をひまわりまつりシーズンの出口とする。
- ④サンフラワーパークへ抜ける町道の新設。(マラソン・クロカンをして温泉に行くルートを作る)
- ⑤河道掘削、砂防ダムの土砂等をひまわり畑に入れるのはどうか。
- ⑥子どもたちが遊べるスペースやドッグランがあるといい。

ソフト① ひまわりの里集客計画(魅力アップ)について

策定委員の意見

- ①ドラマを誘致する。フィルムコミッション。勝手にロケ出来るひまわり畑の用意。
- ②ひまわりの里以外にひまわり関係で訪れることができる場所があればいい。
- ③国道から観光センターにかけて「のぼり」があり、ひまわり畑が見づらい。余計な物がないということが大切。
- ④子どもや高齢者、障害者にやさしい観光地であってほしい。
- ⑤天気が悪くても気持ちよく見られる施設に。
- ⑥いろんな種類のひまわりを混ぜて植えて、お客さんに刈り取ってもらい花束を作る。
- ⑦マスコミ等を最大限利用。

パブリックコメント

- ①花火は、規模は大きくないが工夫がなされており、評判が良いので続けて欲しい。
- ②観光バスを呼び込むため、プランにソフトクリーム引換券等を組み込む。

ソフト② ひまわりの里経営計画について

策定委員の意見

- ①7、8月から始まるカレンダーを作って観光協会で販売するのはどうか。
- ②理想は観光協会の法人化だが難しい、今後も行政が管理運営するしかない。ただし、情報共有をしっかりとすること。
- ③入場料金や駐車料金を検討する時期だと思う。

パブリックコメント

なし

ソフト③ ひまわりの里の情報発信について

策定委員の意見

- ①SNS等インターネットを通じた PR を積極的に行う。
- ②梅原委員に作成いただいたデザインやキャッチコピーをポスターやパンフ、テレビでの PR 等に積極的に活用。
- ③開花状況やイベント情報を常に細かく情報発信。
- ④インスタ・facebook 等あらゆるものを活用。

パブリックコメント

- ①HP、Facebook、Instagram、YouTube
- ②その国の目線によるガイドブック作成

ソフト④ ひまわりの里の名物の開発について

策定委員の意見

- ①個人で開発するのも良いが、北竜町は〇〇が名物と言えるように統一されたものがない。
- ②スイーツを開発するのもいいのでは。
- ③北竜町の農産物にこだわったもの。米・もち米・とうふを使ったスイーツはどうか。
- ④北竜のスイーツを選定するための「日本選手権」の実施。
- ⑤種をふんだんに使ったパウンドケーキやクッキー。メロンやスイカを使ったゼリー。ひまわりの花びらのキーホルダーやイヤリング、ピアス、本のしおりなど。
- ⑥ひまわりサブレはどうか。
- ⑦肉系の名物の開発
- ⑧個人で作るよりも観光協会として開発してほしい。

パブリックコメント

なし

ソフト⑤ 四季を通したひまわりの里の活用方法について

策定委員の意見

- ①冬のひまわり
雪原に大きなひまわりを描いて展望台から見
雪原にプロジェクションマッピングでひまわりを映し出す 雪の回廊にひまわりの灯籠
- ②近隣との連携
秩父別町～ベルパークちっぷべつ、ちっくる、キュービックコネクション、キャンプ場
沼田町～夜高あんどん
- ③「あぜ道を歩く」とか、「ひまわりの種まきや草取り」「ひまわりの刈り取り」などの体験観光
- ④ふるさと納税の返礼品を田んぼ一区画や、ひまわり畑の一区画に。
→返礼品はその区画から収穫できるお米やひまわり油を送る。
- ⑤寄付した区画が収穫の時期を迎えたら、自ら収穫に来てもらうなど。可能であれば苗や種を植えるところから参加してもらう。
- ⑥拡張できるスペースがあれば春と秋は他の花を植えてはどうか。そうすると休憩場所として通年で活用できる常設のカフェ等が必要になるが。
- ⑦過去にも通年観光をいろいろと検討したが、誰がやるのかという問題で消えてきた経緯あり。やはり難しい。
- ⑧冬期間の活用としてスノーモービル等が考えられるが、やるのは大変。
- ⑨輪作体系を考え、体験ができるものを考えてはどうか。じゃがいも掘りだとか、カボチャを採るとか、ひまわりの花摘み体験。
- ⑩ひまわりに特化すべきと思う。広大なひまわりを見せる。ひまわりの里の管理は、今は人がいなくて、やってくれる人がいない中、やっとやっている状況。そんな状況で農業体験を運営する人がいるのか？

パブリックコメント

- ①麦畑とひまわり→麦わらストロー、麦わらアート(ヒンメリ)
- ②ハーブ(コリアン・パクチー・チャイブ・ミント・バジル・タイム・ローズマリー)とひまわり
・茨城県 ひたち海浜公園→春:ネフローゼ&スベチ&チューリップ、夏:ヒマワリ、秋:コスモス&コキア
- ③キッチンカー 軽食・飲料の提供
- ④ひまわりの里を夏はマラソンコース(北商ロードレース)、冬はクロスカントリーコースをして活用

ソフト⑥ その他

策定委員の意見

- ①いま本州で北海道に泊まりで農業体験したいという人が待機だけで2万人いるということを聞いたことがある。農業体験をさせてはどうか
- ②1日だけではなく長期滞在を促すように、連泊なら宿泊費割引や家族何人来ても10万円など長期滞在させるための企画があってもいいのではないか。
- ③北竜町公認の「明るい農法ファミリー(仮)」を創設して、ファミリーには名前入りのギンガムチェックの名刺を持ってもらう。出張先などで「元気で健康なエネルギーを生み出す、北竜町の明るい農法ファミリーです。」と自慢しながら、名刺を配って北竜町をアピールしてもらう。
- ④商品開発のデザインを考えている人、新しいビジネスをしたい人、会社を作りたい人、「何でもクリエイティブ・カフェ」の創設。
- ⑤リピーター確保策として「農園サポーター」制度を創設。里で加工・販売している野菜等を近隣で栽培し、その畑を区切り、各区画に募集したサポーターを割り振って運営の手伝いをしてもらう(あくまで手伝いのみ。主たる運営者は別)
- ⑥ひまわり畑の中に蛇行した散策路と、ポイントごとに広葉樹で日陰を作りベンチを設置。
- ⑦ひまわりの種を使った絵を描いてもらい、種絵コンテストはどうか。
- ⑧町内で、趣味で何かを作っている方の作品を展示してはどうか。
- ⑨近隣市町村を巡る観光バスコースを作成。
- ⑩ひまわりの花を見て、メロンやスイカの収穫体験をするコース(農協観光が行っているようなコース)を作成。
- ⑪原点に戻り、全町民が庭先等にひまわりを植える
- ⑫ひまわり油と調味料の組み合わせ、混ぜたらドレッシングができるセットや卵黄と混ぜたらマヨネーズができるといった子ども向けの物も面白いのでは。

パブリックコメント

- ①体験型の観光が人気を集めているので農業体験はビジネスチャンスだと思う。
- ②体験として、「北竜町のお米でご飯を炊く」「大豆を使って豆腐を作る」「ひまわりの花びらで染める」「カゴを作る」というのはどうか。また、冬に温泉に泊まるお客様にも色々な体験ができると案内する。
- ③ヤマケン保養施設を宿泊施設として活用してはどうか。